

客中の作（李白）

蘭陵美酒鬱金香 玉椀盛来琥珀光
但使主人能醉客 不知何處是他郷

蘭陵の美酒鬱金香

解説 他郷にあつての感懐を述べたもの。李白が長安を追放され、山東地方を放浪していたころの作品とみられている。

玉椀盛り来る琥珀の光

語釈 ※客中＝旅の途中。 ※蘭陵＝地名、美酒の産地。 ※鬱金香＝西域に産するうつこん草から取った香料。これで酒に香をつける。 ※玉椀＝美しい杯。 ※琥珀＝酒の色を美しくいったもの。 琥珀色。 ※主人＝宿のあるじ。 ※客＝旅人。 李白さす。

但主人をして能く客を酔わしめば

通釈 蘭陵のうま酒は、鬱金香のような芳香を放っている。美

知らず何れの処か是れ他郷

しき杯にもれば、琥珀色に光り輝く。ただ、この宿屋のあるじが、旅人の私を十分に酔わせてくれさえすれば、いったい、どこが他郷なのであろうか。故郷にいるのと少しも変わりはない。